■公館長表彰＜金沢大学　中村誠一教授＞

在グアテマラ日本大使館
特命全権大使　川原英一御挨拶
―2015年11月25日夕　大使公邸―

ご来賓の皆様、
中村教授、
おめでとうございます。

　中村教授とマヤ遺跡との直接の関わりは、1983年に考古学協力隊員として活躍からはじまりました。今世紀に入り、マヤ文明のスーパースターであるティカル遺跡の調査・研究を開始されました。

ティカル遺跡保存研究のためのセンターが日本の協力で設置された背景には、中村先生の長年にわたる日本とグアテマラ政府への働きかけがあったと聞いております。

ティカル遺産の保存・研究センターを中心にこれまで研修プロジェクトを実施されて、当国および隣国の考古学保存に関する指導的人材の育成に貢献されておられます。また、母校である金沢大学でもティカルプロジェクトを大学の看板プロジェクトとして立ち上げ、若い研究者の指導・育成にあたっておられます。

最近、中村先生は、修復が必要なティカルにある北のアクロポリスを調査し、その全体像のmapping を行い、日本の印刷会社の協力を得て、3D画像の作成も手掛けておられます。

2013年には、地域資源としてのマヤ文明遺跡の保存と活用についての研究もされておられます。2014年からは、ティカル周辺住民の生活向上プロジェクトを実施中です。

プロジェクト実施と併せて、2010年、2011年には、グアテマラ文化省高官や Dr.Hector Escobedo 文化スポーツ大臣を金沢大学へ招聘されるなど、学術交流の橋渡し役としても御活躍されました。
また、2014年10月には、グアテマラ公式訪問をされた秋篠宮同妃両殿下のティカル遺

跡視察に案内役として御活躍頂きました。

私たちは、学校の歴史教科書で、旧大陸の4大文明（エジプト・ナイル、メソポタミア、インド・インダス、中国黄河）については、学びましたが、マヤ文明については学んでいませんでした。これは欧米の古代研究が新大陸をカバーしていないためであったからと思います。

マヤ文明は、紀元前4世紀から1世紀には既に確立されており、素晴らしい芸術・建築・彫刻を残し、世襲の王が支配する都市国家群があり、熱帯雨林で栄え、水資源の管理に巧みであったことなどが知られております。現在は、マヤ文明は、旧大陸の4大文明に匹敵する一大文明として位置付けられていると理解しております。

中村先生は、このマヤ遺跡の研究・交流活動を通じて、日本とグアテマラの架け橋の役目を果たされてきておられ、日本とグアテマラの人々との絆を深めて頂いたことに深く感謝をしております。

今年に入り、金沢大学とデル・バジェ大学間のパートナーシップ協定が署名され、具体的な活動を今後展開していくものと大いに期待をしております。また、マロキン大学およびサンカルロス大学との提携も進んでいると聞いております。
グアテマラの3つの大学との間での学術交流の促進についても、金沢大学中村教授の御尽力が大きかったと理解しております。

今年は日本とグアテマラの外交関係80周年という節目の年に当たります。
この機会に日本とグアテマラの関係を、マヤ遺跡研究・人材育成・学術交流の分野から長年にわたり促進してこられた中村教授を顕彰し、深い感謝の気持ちを表明できることを、大変に喜ばしく存じます。
誠におめでとうございます。

（了）